

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島状況雑件 日米協ギ (委)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米協議委員会 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43719">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43719</a>

卷首 (大正・長官)

○

○

秘  
無期限

日米協議委員会における総務長官挨拶

1965. 9. 20

本日は、ライシャワー駐日米大使、エマソン公使、  
琉球米国民政府からは<sup>マーティン</sup>政務顧問の出席を以て、日米  
協議委員会発足後第六回目の会議が南催され  
すことは、喜ばしく御同慶の至りに存じます。

先づ、私は去る八月十九日から三日前、佐藤総理  
大臣はじめ関係大臣等の沖縄訪問に際し、  
米大使館、米国民政府側の米側の示された  
絶大な御協力と款待に対し、所管大臣として衷心  
から御礼を申し上げます。今回の総理大臣の沖縄  
訪問により、総理大臣自ら沖縄の現実の姿と十分

総 理 府

把握することのできたのみならず、日本政府の  
当面の施策として、日米協力体制の下に、日本政  
府の経済技術援助の画期的増大により、沖  
縄住民の民生、福祉の向上を推進する<sup>氣運</sup>  
が~~高まってきた~~  
~~有利~~なのは、この訪問の大きな成果であると思  
うのであります。

すてに御承知のことと存じます。佐藤総  
理大臣の沖縄訪問の直後、内閣に沖縄問題  
関係協議会が設けられ、今日まで六回南  
催され、主として日本政府の側からみた明年度の  
日本の沖縄援助費が如何にあるべきかについて

総 理 府

協議されたのであります。従って、本日米側から

提案のあります、明年度の日本政府の沖縄援

助費原案を十分拜聴いたし、検討した上で、

上記沖縄問題閣僚協議会で協議した

方針に基づいて、次回の日米協議委員会に

日本側の提案を行うことといたしたいと存じます。

何れにいたし和でも、本年は佐藤総理大臣

の沖縄訪問という歴史的な出来事があり、

その前後において日米両国の直接、間接の意

志の疎通も行われておりますので、沖縄住民

の福祉の向上を促進するたりの日本政府の沖縄

援助費に関する限り、日米間に本質的な意見の

相違はないと考へるのであり、今年も昨年

に比べ、比較的早期に日米の合意が可能

であろうことを期待するものであります。

以上をもつて簡単ではございますが、私の

御挨拶といたします。

ありがとうございました。

秘  
無期限

北米局長  
参事官  
北米課長

第6回沖繩協賛委員会  
における外務大臣の冒頭演説(案)  
昭和40.9.25.  
米北

ライシャワー大使閣下、安井総務長官、  
列席の皆様

閣会にあたり一言御挨拶を申し上げます。  
本日9委員会は先月米國とくに琉球

民政府の多大の御協力を得て成功裡に  
行われた佐藤総理の沖繩訪問のあと

の最初の会合であります。  
総理の訪問は、本土国民の沖繩住

民に対する一体感を表明するとともに、同地  
の苦痛を現察して今後わが国政府の

沖繩施策の<sup>に生かす</sup>進め方を<sup>の成果を</sup>目的とする  
ものであります。同時に、これは、沖繩

重要性

に關し現に存在する日米協力体制の~~維持~~  
を明らかにするに必要と後述したものであります。

申すまでもなく、この日米協賛委員会には、  
かかる協力関係の最も端的な表われ

である~~こと~~、<sup>これに基く</sup>、<sup>的措置をとり</sup>、~~具体的~~にその協賛  
体制であります。この意味におきまして、

日米相協力して実施された総理の訪  
問は、日米両國の沖繩住民の利益の

ために生かすか否かは、この委員会が今後  
の活動にかかっている<sup>如何</sup>のであります。

総理は、沖繩において住民の民生  
の向上に寄与するため、本年度の日本より

の沖繩援助を~~も~~質量ともに強化する  
意向であることを明らかにいたしました。

本日委員会は、米側の特許を得て、本年度  
に及ぶ我が国政府の特許援助に關する  
議決を公式に開始するわけでありませう。  
私は、この委員会が、日米協力の精神  
と基礎を成す日米相互信頼関係を  
反映して、~~困難~~ 重要な業務に積極的  
に取り組む、円滑かつ早急に合意  
に至ることを希望するわけでありませう。  
(より努力したいと存じ)

秘  
無期限

第6回沖繩協議委員会におけ  
る外務大臣の冒頭発言(案)

昭和40.9.20

ライシャワー大使閣下、安井総務長官ならび  
に御列席の皆様

開会にあたり一言御挨拶を申し上げます。本  
日の委員会は先月米国とくに琉球民政府の多大  
の御協力を得て成功裡に行なわれた佐藤総理の  
沖繩訪問のあとの最初の会合であります。

総理の訪問は、本土国民の沖繩住民に対する  
一体感を表明するとともに、同地の実情を視察  
してその成果を今後のわが国政府の沖繩施策に  
生かすことを目的とするものでありましたが、  
同時に、それは、沖繩に関し現に存在する日米  
協力体制の重要性を明らかにすることにも役立  
つたのであります。

申すまでもなく、この日米協議委員会は、か  
かる協力関係のもつとも端的な表われであり、

それに基づく具体的措置をとるための協議機関  
であります。この意味におきまして、日米相協  
力して実施された総理の訪問を、日米両国と沖  
繩住民の利益のために生かすか否かは、この委  
員会の今後の活動如何にかかっているともしえ  
るのであります。

総理は、沖繩において住民の民生の向上に寄  
与するため、来年度の日本よりの沖繩援助を質  
量ともに強化する意向であることを明らかにい  
たしましたが、本日の委員会は、米側の提案を  
得て、来年度におけるわが国政府の沖繩援助予  
算に関する審議を公式に開始するわけでありま  
す。

私は、この委員会が、日米協力の精神とその  
基礎を成す日米相互信頼関係を反映してこの重  
要な業務に積極的に取組み、円滑かつ早急に合  
意に達するよう努力いたしたいと存じます。

CONFIDENTIAL

(Translation)

Opening Statement by Foreign Minister Shiina  
at the Sixth Consultative Committee on Okinawa

September 20, 1965

Ambassador Reischauer, Minister Yasui, Gentlemen,

I should like to say a few words at the opening of the Sixth Meeting of the Consultative Committee on Okinawa.

This meeting is the first since the Prime Minister's visit to Okinawa of last month, which registered a great success with the active cooperation of the United States Government and, in particular, the Civil Administration of the Ryukyu Islands.

The Prime Minister's visit had as its aims manifestation of the sense of unity the people of mainland Japan feel towards the people of Okinawa as well as acquiring a better understanding of the realities of Okinawa so as to help formulation by the Japanese Government of more effective policies toward Okinawa. It also served to bring into relief the importance of the existing Japan-U.S. cooperation on Okinawa.

This Consultative Committee is the most straightforward expression of the cooperative relations between Japan and the United States regarding Okinawa, and is a joint device for the planning and implementation of concrete measures on the basis of such relations. In this sense, I may say that it depends upon future activities of this Committee whether we can really make full use, for the interests of our two countries and for the benefits of the people of Okinawa, of the achievements of the Prime Minister's visit conducted under a close cooperation of Japan and the United States.

During his visit the Prime Minister made clear his intention to improve both in quality and in quantity the Japanese Government's assistance to Okinawa in the next year in order further to promote the well-being of the inhabitants of the Islands. This Committee is now to initiate, with the submission of the United States proposal, official deliberations on the budget of the Japanese Government's assistance to Okinawa for the next fiscal year.

- 2 -

We would try our best so that this Committee may, reflecting the spirit of mutual cooperation and mutual trust between the two countries, tackle this important task with a constructive attitude and come to a smooth and early agreement.

Thank you very much.



秘  
無期限

佐藤 北米局長 本宮 参事官 北米課長  
北米局長 本宮 参事官 北米課長  
北米局長 本宮 参事官 北米課長

第6回協成委員会における  
外務大臣の冒頭発言(案)

4/15

封

ライマウ大使閣下、安井総務長官並びに  
各位

閣会にあり、一言の挨拶を申し上げます。  
今日のこの委員会は、本協成委員会の発足

以来第6回目、本年4月2日の日米間交換公文  
に基づきこの機能の拡大にむかひ第2回目的会

会であり、本委員会が国を重なる毎に日米友好  
協調の場として成果をあげ、あつたは、互に互に

慶幸と存せらるる次第であります。

以承知の通り、佐藤総理は去る8月沖繩を  
訪問時に親しく案情を具申し、この際種々の沖繩援助

等が

構想を明らかにしました。

日本政府は参事官の構想を実現するもの

新たに閣僚協成会を設置し援助方法を検討した  
ものの結果、差し当りは教育、社会福祉、産業基盤

等に対し積極的な援助を行なう、この水準を  
本土の水準に引き上げることに重点をおき、これに伴う

予算の増額を負担するに致しまして、是非、  
来年度の援助予算にこれを具体化したことを希望して

ます。

今日の会合は主として来年度の日本の援助

予算に関し協成を行なうことを目的とするもので  
ありますが、沖繩援助の実施年続に於て、日本

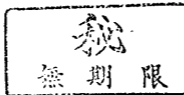
政府の次年度、沖繩に対し供与する援助の  
希望項目とその金額は、支那米日側から本委員会を

通しの日政府に提出されることになっていまして、  
本日は先づ米内閣の提案を承りたいと思ひ

す。貴方の提案を承つた上で、おか  
方の意見を申し述べたいと思ひます。

最後に、沖縄から本委員会に参加された  
ハンス計画局長並に建川氏の歓迎の意

を表したいと思ひます。  
ありがとうございました。



日米協議委員会における  
総務長官挨拶

1965. 9.20

ライシャワー大使閣下、准名外務大臣、御出席の皆様、本日ここに日米協議委員会発足後第6回目の会議が開催されますことは、まことに御同慶の至りに存じます。

まず、私は、去る8月19日から3日間、佐藤総理大臣はじめ、関係大臣らの沖縄訪問に際し、米国大使館、米国民政府はじめ、米側の示されました絶大な御協力と歓待に対し、所管大臣として衷心から御礼を申し上げます。今回の総理大臣の沖縄訪問により、総理大臣自ら沖縄の現実の姿を十分把握することができましたのみならず、日本政府の当面の施策として、日米協力体制の下に、日本政府の経済技術援助の画期的増大により、沖縄住民の民生、福祉の向上を推進する気運が高まってきましたのは、この訪問の大きな成果であると思うのであります。

すでに御承知のことと存じますが、佐藤総理大臣の沖縄訪問の直後、内閣に沖縄問題閣僚協議会

が設けられまして、今日まで2回開催され、主として日本政府の側からみた明年度の日本の沖縄援助費がいかにあるべきかについて協議されたのであります。

従つて、本日米側から提案のあります明年度の日本政府の沖縄援助費原案を十分拝聴いたし、検討した上で、上記沖縄問題閣僚協議会で協議された方針に基づいて、次回の日米協議委員会に、日本側の提案を行なうことといたしたいと存じます。

いずれにいたしましても、本年は佐藤総理大臣の沖縄訪問という歴史的な出来事がありましたし、その前後において、日米疎間の直接、間接の意志の疎通も行なわれておりますので、沖縄住民の福祉の向上を促進するための日本政府の沖縄援助費に関する限り、日米間に本質的な意見の相違はないと考えるのでありまして、今年は昨年比べ、比較的早期に日米の合意が可能であろうことを期待するものであります。

以上をもつて簡単ではございますが、私の御挨拶といたします。ありがとうございました。

CONFIDENTIAL

Remarks by Director General Yasui  
at the Sixth Consultative Committee on Okinawa

September 20, 1965

Ambassador Reischauer, gentlemen,

I should like to make a few remarks at this sixth meeting of the US-Japan Consultative Committee on Okinawa.

First of all, I wish to express my sincere gratitude as the Minister in charge for the close cooperation and warm reception extended to Prime Minister Sato and his party by the United States Embassy, USCAR and the United States Government as a whole on the occasion of his recent visit to Okinawa. I believe that this visit has achieved excellent results. Not only has the Prime Minister obtained a better understanding of the realities of Okinawa, but the visit has generated a strong awareness within the Japanese Government of the need for accelerating the progress in the areas of welfare and well-being of the inhabitants of Okinawa through a radical increase of our economic and technical assistance in close cooperation with the United States Government.

As you know, following the Prime Minister's visit to Okinawa, the Cabinet established a Ministerial Consultative group on Okinawa. This group has convened twice since then and discussed mainly the question of what scope and contents of the Japanese aid program to Okinawa for the next fiscal year were desirable from the Japanese viewpoint. We look forward to your presentation of the United States proposal on the Japanese economic assistance program for JFY 1966. After reviewing it we will formulate our counter-proposal in accordance with the policy examined at our ministerial meetings and will submit it to the next meeting for the consideration by this Consultative Committee.

I feel that with Prime Minister Sato's visit our cooperative relationship on Okinawa has entered a new stage. Also, I know that before and after the visit, there was direct as well as indirect exchange of views concerning our aid program among the people concerned of the United States, Japan and Okinawa. Thus, I hope that there will be no substantial difference of opinions

between

- 2 -

between the United States and Japan as regards the assistance program of the Japanese Government to Okinawa. I expect, therefore, that this year agreement may be reached at an even earlier date than last year.

Thank you very much.

閣下  
ライオン大使、推名外大臣、御出席の皆様  
日米協議委員会における総務長官挨拶

1965. 9. 20

本日は、~~ライオン大使、推名外大臣、御出席の皆様~~ 琉球米  
国民政府から~~マーティン政治顧問の出席を経て~~、日米協議委員  
会発足後第六回目の会議が開催されますことは、まことに御同慶  
の至りに存じます。

先づ、私は去る八月十九日から三日間、佐藤総理大臣はじめ、  
関係大臣等の沖縄訪問に際し、米国大使館、米国民政府はじめ米側  
の示されました絶大な御協力と歓待に対し、所管大臣として衷心  
から御礼を申し上げます。今回の総理大臣の沖縄訪問により、総  
理大臣自ら沖縄の現実の姿を十分把握することができましたのみ  
ならず、日本政府の当面の施策として、日米協力体制の下に、日  
本政府の経済技術援助の画期的増大により、沖縄住民の民生、福  
祉の向上を推進する気運が高まってきましたのは、この訪問の大  
きな成果であると思うのであります。

すでに御承知のことと存じますが、佐藤総理大臣の沖縄訪問の

直後、内閣に沖縄問題閣僚協議会が設けられまして、今日まで二  
回開催され、主として日本政府の側からみた明年度の日本の沖縄  
援助費が如何にあるべきかについて協議されたのであります。

従つて、本日米側から提案のあります。明年度の日本政府の沖縄  
援助費原案を十分拝聴いたし、検討したうえで、上記沖縄問題閣  
僚協議会で協議された方針にもとづいて、次回の日米協議委員会  
に日本側の提案を行うことといたしたいと存じます。

何れにいたしましても、本年は佐藤総理大臣の沖縄訪問という  
歴史的な出来事がありましたし、その前後において日米琉間の直  
接、間接の意志の疎通も行われておりますので、沖縄住民の福祉  
の向上を促進するための日本政府の沖縄援助費に関する限り、日  
米間に本質的な意見の相違はないと考えるのでありまして、今年  
は昨年比べ、比較的早期に日米の合意が可能であろうことを期  
待するものであります。

以上をもつて簡単ではございますが、私の御挨拶といたします。

ありがとうございました。

秘  
無期限

北米局長  
参事  
北米課長

神戶以南 米6回  
日米協談委員会 127112

昭和40.9.14  
北米課

本日、特達局 林総務課長が、  
米6回日米協談委員会におき、総務局長控提案  
(送付先、外務省の2対1を米6回)  
と(2)別紙 ~~送付先~~ の2に査査  
願います。

(とくに善しと云ふしと思われず。  
外務大臣控控等にて記す中。